

インナー大会プレゼン部門 2017 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報に記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) コマザワダイガク	フリガナ) ケイザイガクブ	フリガナ) マツダゼミナール
駒澤大学	経済学部	松田ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 動画 (有・無)
フリガナ) ヒエピタハン	フリガナ) スギヤマテツヤ	4 人	なし
冷えピタ班	杉山哲也		

※プレゼンツールを使用する場合は記入してください。記入がないプレゼンツールは大会当日使用できません。

使用するプレゼンツール (具体的に使用するツールを明記してください)
パワーポイント

研究テーマ (発表タイトル)
BOND ～人のつながりを意識した買い物支援～

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

IT の進歩によって買い物は以前よりも格段に容易なものになり、インターネットを自由自在に扱うことができる私たちは「光」を得ることができた半面、インターネットを扱うことが苦手で、様々な要因から買い物に困難を覚える人々=買い物難民は、「影」の影響を強く受けるようになった。

私たちは、活動を通して現状の買い物難民問題を様々な人々に認知してもらい、買い物支援を実施する体制の基盤づくりを行い、そして新たな団体や自治体にこの支援を継続的なものにしてほしいと強く希求している。こうしたところから、現代の流行とは逆行するとも言える人のつながりを利用した新しい買い物支援方法を提案したいと考えた。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

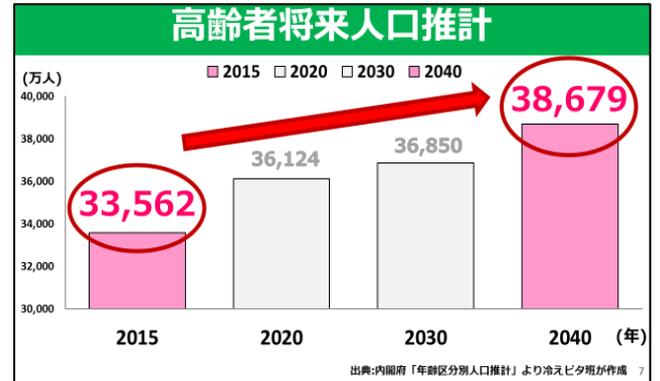
買い物は生きていくうえで必要不可欠な手段である。しかし、高齢者が該当しやすい買い物難民の数は、推計で約 600 万人に上ると言われている(図 1)。少子高齢化が急速に進行する今後の日本の人口形態を考えると、買

い物難民は今よりもますます増加していくことは必然である(図2)。

現在、買い物難民への支援として通販や商品の配送、送迎サービス、移動販売など様々な施策が展開されているが、一向に買い物難民問題は解決へと至らない。その理由として私たちは、買い物難民の現状や深刻度を把握せず、支援者側の自己満足に過ぎない**一方的な支援**が原因の一つだと考えるに至った。この点から、支援する側も支援される側も問題の深刻さを把握している**地域住民**を主体とした、**人と人のつながり**を重要視するコミュニティの再建と同時に行う買い物支援こそが問題解決へ繋がる第一歩ではないだろうか。



(図1)



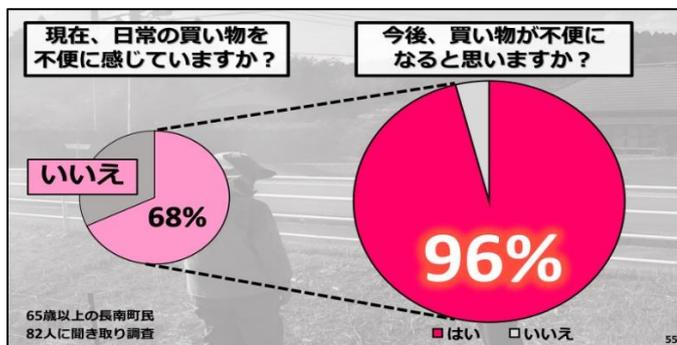
(図2)

3. 研究テーマの課題

事例研究(群馬県明和町)を通じて得られた知見に基づき、検証地域の現地調査を行った。ここで、「現在、買い物に対して抵抗があるか」という問いを住民に投げかけたところ、抵抗があると答えた住民は全体の32%に過ぎなかった。しかし、抵抗が無いと答えた住民のうち、ほぼ全員が「今はそうは思わないが、今後大変になると思う」という回答であった(図3)。このことから、買い物が大変な地域での生活に慣れてしまい、現状の問題を先延ばしにし、「誰かがやってくれるだろう」・「役場がお金を出して…」というような問題解決を**人任せ**にしてしまう傾向にあることが分かった。

杉田聡の著書『「買い物難民」をなくせー消える商店街、孤立する高齢者』の第4章にて、著者は「買い物難民問題の解決には、コミュニティの結束を強め、対象住民に買い物難民問題を認識してもらうことこそが重要」と、**問題解決はコミュニティ内での協同による自己解決こそが最善の手段**と述べている。

買い物難民問題は一朝一夕では解決できない問題であるからこそ、我々の活動の目的でもある現状の問題を以前よりも認知してもらい、コミュニティ内での自己解決に向けて「住民に近い存在が」住民に寄り添った支援を継続し続けることこそが有効な支援だと考えた。



(図3)

4. 課題解決策(新たなビジネスモデル・理論など)

既存にない買い物支援として人のつながりを利用した、「〇〇がてら」の買い物支援を提案する。地区の交流会や役場などが提供している講座、通院や用事などに行く「がてら」買い物を行える場所＝「街の駅」という**地域の拠点地**の環境を整備する(図4)。さらに、街の駅の一室に誰でも使える団らんカフェをコンセプトとした「街

の待合室」を設ける。街の駅にて社会福祉協議会が主催する講座や街の待合室での団らんなど、人との交流「がてら」買い物を行える環境を整備することで、コミュニティ内の絆＝「BOND」の再建が可能になる。

さらに、買い物支援を継続していく上で発生する問題点として、支援される側が負い目を感じてしまう点である。この問題点を解消すべく、週に2回、支援されている側の住民が主導（＝リーダー）となって活動する「みんなの時間」を設けることを予定している。支援される側が主導となって活動をし、いつも支援される側から立場を変えることで「支援され続けることへの負い目」を解消し、フラットな関係を構築することで、より一層のコミュニティの再建が可能になり、独自性の強い支援提供ができると考えた。現在、「長南町・BONDプロジェクトの広告ポスターを作ろう」や「街のいいところ・歴史を話そう」、「公民館の清掃活動」といった活動をしたという要望を聞くことが出来ている(図5)。

買い物支援は、現地販売型の町内にある個人商店との協力を検討している。買い物する場の販売員も地域住民のボランティアが行い、運営に参加してもらうことによって、利用者に馴染みがあるお店の商品を顔なじみの人から購入するシステムによって、買い物を安心して、そして話し「がてら」できるようになる。

地域の拠点地である街の駅にて友人との団らんや交流をするついでに知り合いのお店・人から買い物ができる支援を行うことによって、コミュニティの再建と共に継続的な支援を実施することが可能だと考えた。これが、私たちが提案する「BOND」プロジェクトである(図6)。

(図 4)

みんなの時間 活動内容			
日程	時間	講座内容	リーダー
4/10 (火)	10:00~14:00	和気あいあい	
	14:00~15:00	災害発生時 予防講座	社会福祉協議会
4/12 (木)	13:00~14:00	BONDの広告を作ろう	宮本・田沼さん (仮名)
4/17 (火)	13:00~14:00	BONDの広告を作ろう	宮本・田沼さん (仮名)
4/19 (木)	13:00~14:00	認知症予防講座	社会福祉協議会
4/24 (火)	10:00~14:00	和気あいあい	
	14:00~15:00	認知症予防講座	社会福祉協議会
4/26 (木)	13:00~14:00	将棋・遊戯講座	足利さん・山本さん (仮名)

(図 5)

(図 6)

5. 研究・活動内容 (アンケート調査、商品開発など)

この研究の内容を検証していくうえで、対象地域として千葉県長生郡長南町を選定した。この地域は、今後の人口動態の劇的な変化や交通網の弱体化、小売店の不足など買い物に抵抗を抱く要因が数多く存在している地域であり、明和町と近似の条件にある。

この地域にて現地調査を行ったところ、全体の約7割近くの住民の方々から私たちの提案する支援について利用したいという声を頂いた(図7)。今は必要ないという声も頂いたが、数多くの現地調査や有識者の方からの意見、そして研究を進めてきた中で、住民に寄り添った長期にわたる地道な支援こそが買い物支援成功への近道だと研究を進めてきた中で確信できたため、継続的な支援を提供していきたいと考えている。これらを踏まえて、利用したいと返答していただいたの方々に向けて精一杯の支援を提供していくことで、少しずつ利用者の輪が広がっ

ていけばより良いコミュニティの再構築に向けた第一歩を踏み出すものだと考えている。



(図 7)

6. 結果や今後の取り組み

来年4月からの支援の本格的実施に向けて、今後現地を訪れ、行政・民間・住民の方々との話し合いを通じて「人のつながり」を意識した買い物支援を行いたいと考えている。現時点では、それぞれの主体との交渉は既に終了し、実現に向けて小さいながらも着実な歩みを進めている状況にある。

開催の頻度や販売予定商品の品ぞろえの問題などは、継続的な支援を念頭に、「段階を踏んで」支援の内容を充実させていきたいと考えている。「人」が抱く深刻な社会問題だからこそ、その「人」に寄り添った支援を一徹して貫いていきたい。それこそが社会問題への最善の解決アプローチだと信じて活動を続けていきたい。

7. 参考文献

- ・佐藤瞭、山口淳『「買い物難民」発生の原因分析を踏まえた解決策に関する考察』『経営情報学会 2015 年度秋季全国研究発表大会予稿集』経営情報学会、2015 年、339-342 頁。
- ・社会工学研究会 多摩学研究班『多摩ニュータウン再生に向けた新たな活性化策の研究』多摩学電子新書、2016 年。
- ・杉田聡『買い物難民もうひとつの高齢者問題』大月書店、2008 年。
- ・杉田聡『「買い物難民」をなくせ！消える商店街、孤立する高齢者中央公論新社、2013 年。
- ・村上稔『買い物難民を救え！ 移動スーパーとくし丸の挑戦』緑風出版、2014 年。
- ・薬師寺哲郎『超高齢社会における食料品アクセス問題』ハーベスト社、2015 年。

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、インナー大会・東京経済大学大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経 BP マーケティング社様に作製していただく大会結果 HP に本企画シートは掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しいたします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の(過去に他誌・HP などに発表されていない)ものに限りません。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、著作権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※プレゼンツールを使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを 4 ページ以内におさめて、提出してください